



# 竹原市立吉名学園 研究推進の取組



竹原市立吉名学園

# 「自立した学び」を子供たちに

これまでの学校文化には、大人が子供に「答え」を授けるような慣習が根強く残っていました。そのことが、子供たちから自立のために学ぶ機会を奪ってきたのかもしれない。

私たちは、子供たちの学びにレールを敷いたり、ゴールを用意したりしません。乗り越えたくなるような高い壁と出合わせてやりたいと考えます。そして、子供たちの中に「問い」を育てます。それは、彼らに学びの主権を返すことです。

私たちは、未来を拓く子供たちと一緒に、これからのあるべき学校の姿を追い求めていきます。

# 研究の概要

---

# 研究の概要

## 研究主題

主体的に学び、自分の言葉で語る児童生徒の育成

—郷土に学び 未来を拓く プロジェクト型学習を通して—

児童生徒が自ら求め、「学び」を創っていく

## 「自立した学び」への転換

PBL(プロジェクト型学習)の考え方を参考にした単元づくり

○共通の視点に基づいた単元づくり

- ・単元の三つの型
- ・単元づくりの五つのポイント

児童生徒にとって充実した**活動**を通して

系統的に育成を目指す資質・能力の設定

**資質・能力**の育成を実現する

○育成したい力の設定と系統化

○ルーブリックを活用した評価

**地域の材(財)**を扱い

# 研究の概要

## 研究主題

主体的に学び、自分の言葉で語る児童生徒の育成

—郷土に学び 未来を拓く プロジェクト型学習を通して—

児童生徒が自ら求め、「学び」を創っていく

## 「自立した学び」への転換

PBL(プロジェクト型学習)の考え方を参考にした単元づくり

○共通の視点に基づいた単元づくり

- ・単元の三つの型
- ・単元づくりの五つのポイント

児童生徒にとって充実した**活動**を通して

系統的に育成を目指す資質・能力の設定

資質・能力の育成を実現する

○育成したい力の設定と系統化

○ルーブリックを活用した評価

# 共通の視点に基づいた単元づくり

## 単元の三つの型



### 夢実現型

個人や学級の思いや願いの実現を図る。



### 提言型

学校や地域の課題に対して、個人や学級で考えた解決策を提言する。



### 貢献型

学校や地域の課題解決に向けて行動する。

「やってみたい」「なんとかしなければ」

# 共通の視点に基づいた単元づくり

## 単元づくりの五つのポイント



### 本気になる課題設定

自分、学校全体、地域社会にとって重要な課題と出合わせ、それを基にプロジェクトを立ち上げる。



### 高い壁との出会い

活動を進めていく過程で出合う高い壁（失敗・困難）を取り除かず、意図的に出合わせ、解決に向けて試行錯誤する場を設ける。



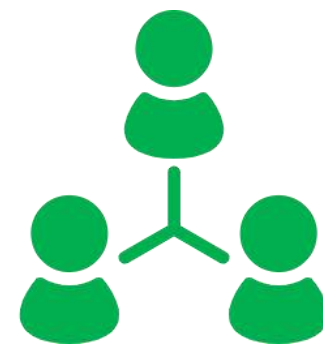
### 再挑戦の場の設定

失敗を失敗のままで終わらせるのではなく、再挑戦の場を与えることで、困難や苦勞を乗り越えた先に得られる達成感・満足感を味わわせ、自信をもたせる。



### 思いや願いに基づく挑戦

児童生徒の思いや願いに沿って、活動を進める。思い切った活動・挑戦を進めることができるように、教師の支援は必要最小限とする。



### 「本物」からの学び

一流の人や本物に敬意をもって学ぶことで、児童生徒は深い学びができ、よりよい生き方を考えることにつながる。

# 研究の概要

## 研究主題

主体的に学び、自分の言葉で語る児童生徒の育成  
—郷土に学び 未来を拓く プロジェクト型学習を通して—

児童生徒が自ら求め、「学び」を創っていく

## 「自立した学び」への転換

PBL(プロジェクト型学習)の  
考え方を参考にした単元づくり

○共通の視点に基づいた  
単元づくり

- ・単元の三つの型
- ・単元づくりの五つのポイント

児童生徒に  
とって充実  
した活動を通  
して

地域の材(財)を扱い

系統的に育成を目指す資質・  
能力の設定

**資質・能力**  
の育成を  
実現する

○育成したい力の設定  
と系統化

○ルーブリックを活用  
した評価



# 育成したい力の設定と系統化

## 「拓く力」の育成

英語力

ICT活用力

プレゼンテーション力

学校教育全体で育成するが、柱となるのは「**YOSHINA未来学**」(生活科・総合的な学習の時間)

### 「YOSHINA未来学」で育成したい力

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
ア 知識 イ 技能 (主としてICT活用力)	ウ 課題を発見する力・企画する力 エ 活動を計画・推進する力 オ 情報を収集する力 カ 整理・分析する力 キ 表現する力 (主としてプレゼンテーション力) ク 発想する力・工夫する力 ケ 評価する力	コ 挑戦する力・改善する力・やり遂げる力 サ 協働する力 シ 将来を設計する力
ス 英語力		

# 育成したい力の設定と系統化

## 「YOSHINA未来学」で育成したい力の系統化

		第Ⅰ期(1・2年)		第Ⅱ期(3・4年)		第Ⅲ期(5・6・7年)			第Ⅳ期(8・9年)	
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生
① 知識及び技能	ア知識	学校のものや人, 自然に関する知識を身に付けることができる。	学校周辺のものや人, 自然, 自己の成長に関する知識を身に付けることができる。	地域にあるもの(公共物・神社等)や地域の昔に関する知識を身に付けることができる。	地域にある食材や自己の成長に関する知識を身に付けることができる。	自然活動における知識, 情報を伝える手段に関する知識を身に付けることができる。	地域の歴史に関する知識, 地域を支える人に関する知識を身に付けることができる。	地域産業に関する知識, 野菜生産に関する知識を身に付けることができる。	事業開発に関する知識, 様々な職業に関する知識を身に付けることができる。	メディアに関する知識, 将来の進路に関する知識を身に付けることができる。
	イ技能 A: プレゼンテーション型学習 B: 文章作成型学習 C: 動画制作型学習	Aデジタルカメラを使って撮影ができる。また, 写した写真を使って, 簡単なスピーチができる。 Bパソコンの起動や簡単なマウス・キーボードの操作ができる。 Cデジタルビデオカメラやタブレット端末で映像の撮影・視聴ができる。	A自分が撮影した写真や図書資料, インターネットで集めた情報を基に, プレゼンテーションソフトを用いて5枚程度の簡単なプレゼン資料を作成できる。 B自分が撮影した写真や図書資料・インターネットで集めた情報を基に, 文書作成ソフトを用いて, ローマ字入力, 写真のトリミング, 書式の変更等により 50~100字程度の簡単な文章を作成できる。 C自分が撮影した映像を基に, 動画編集ソフトを用いて 30秒間程度の動画を制作できる。	A自分が撮影した写真や動画, 図書資料やインターネット, アンケートなどにより集めた情報を基に, プレゼンテーションソフトや表計算ソフト(グラフ作成)を用いて, 目的に応じた枚数の工夫したプレゼン資料を作成できる。また, 出典を明記し, 責任ある情報発信ができる。 B自分が撮影した写真や図書資料, インターネット, アンケートなどにより集めた情報を基に, 文書作成ソフトを用いて 200~300字程度の工夫した文章を作成できる。また, 出典等を明記し, 責任ある情報発信ができる。 C自分が撮影した映像を基に, 動画編集ソフトを用いて 30秒~3分程度の動画(CM・番組等)を制作できる。	ABC自分が撮影した写真や動画や図書資料, インターネット, アンケートなどにより集めた情報を基に, プレゼンテーションソフトや表計算ソフト(グラフ作成), 動画編集ソフトを用いて, 目的に応じて, 自分の伝えたいことが明確になるような工夫を取り入れたプレゼン資料作成, 文章作成, 動画編集ができる。また, 出典を明記し, 責任ある情報発信を行うことができる。(7年生末の段階で習得したすべての技術を活用し, さらに技能を高めることができる)					
② 思考力・判断力・表現力等	ウ課題を発見する力 企画する力	人や自然等と直接かかわる中で, 気付きや疑問を見付けることができる。 ☆イメージマップ	みんなで集めた疑問や課題の中から, 自分自身で追究したいことを選択・決定することができる。☆イメージマップ	体験したり資料を分析したりする中で新しい課題を見つけ, 課題解決に向けて, 様々な企画(アイデア)を出すとともに, 自分自身で追究したいことを決定することができる。 ☆イメージマップ	社会的な広い視野から自己や地域社会の課題を見出し, 課題解決に向けて, 様々な企画(アイデア)を出すとともに, 自分自身で追究したいことを決定することができる。☆イメージマップ					
	エ活動を計画・推進する力	教師の指示や説明をよく聞いて, 活動を進めることができる。	どうすれば課題が達成できるかを教師や友だちの助言を基に考え, 活動を進めることができる。☆ステップチャート	課題解決に必要な情報や準備物等を教師や友だちの助言を基に考え, 時間的な見通しをもって, 計画的に活動を進めることができる。 ☆ステップチャート	課題解決に必要な情報や準備物等を自分自身で考え, 時間的な見通しをもって, 自発的・計画的に活動を進めることができる。☆ステップチャート					
	オ情報を収集する力	観察したりインタビューをしたりして, メモや撮影をしながら必要な情報を収集することができる。	事前に考えた質問項目を基に, インタビューを行い, 情報を聞き出すことができる。また, 図書資料やインターネットを使って, 必要な情報を収集することができる。	事前に考えた質問項目だけでなく, 相手の反応を見ながら, 臨機応変に対応して, より深く情報を聞き出すことができる。また, 情報の発信元や情報の真偽を確かめながら, 図書資料やインターネットを使って, 必要な情報を収集することができる。	目的や達成したい課題に応じて情報収集の方法を選択し, 必要な情報を収集することができる。					
	カ整理・分析する力	様々な情報を短冊やワークシートなどに整理することができる。 ☆「なぜ」「なに」シート	様々な情報をシンキングツールにより整理・分析することができる。 ☆Xチャート, Yチャート, マトリクス(分類整理) ☆ベン図(比較)	様々な情報をシンキングツールにより整理・分析し, その特徴などを考えることができる。 ☆Xチャート, Yチャート, マトリクス, 座標軸, フィッシュボーン(分類整理) ☆ベン図(比較)	様々な情報を, 内容や目的と照らし合わせて最も効果的だと思われる思考ツールを選択し, 整理・分析するとともに, その特徴などを考えることができる。☆これまでに活用したシンキングツール					
	キ表現する力 A: プレゼン型学習(音声表現) B: 文章作成型学習(文章表現) C: 動画制作型学習(映像表現)	A自分の伝えたい内容について, 教師の示したフォーマットを基に, 簡単な文章を作成することができる。 B教師の示したフォーマットを基に, 構造的な文章を作成することができる。 C自分の伝えたい内容について, マトリクスやベン図を基に, 簡単な文章を作成することができる。	A教師の示したフォーマットや助言を基に作成した原稿用紙に, 内容を盛り込んで発表することができる。 B教師の示したフォーマットを基に, 構造的な文章を作成することができる。 C自分の伝えたい内容について, マトリクスやベン図を基に, 簡単な文章を作成することができる。	A自分の調査したことや考えたこと(主張)などを, その場で言葉を考えてながら伝えることができる。また, 必要に応じて相手の反応に合わせてたりしながら話すことができる。 B目的に応じて文章を作成する文章を作成する。 C起承転結を意識しながら動画を制作することができる。	ABC原稿用紙に, その場で言葉を生み出しながらプレゼンテーション, 文書作成, 動画制作などを行うことができる。また, 必要に応じて相手の反応に合わせてたりしながら, 他者に説明することができる。 また, 必要に応じて, 効果的な効果音, BGMなどを工夫しながら動画を制作することができる。					

第Ⅰ期

第Ⅱ期

第Ⅲ期

第Ⅳ期

# ルーブリックを活用した評価

ルーブリック			
S	A	B	C
...	...	...	...



- ・ルーブリックを基に、児童生徒が資質・能力を発揮した姿を見取る。
- ・見取ったことを基に、形成的評価や指導・支援を行う。

# ルーブリックを活用した評価



- ・ 研究授業ではルーブリックを基に、児童生徒一人一人の姿を全教職員で見取る。
- ・ 「だれが」「どのように」資質・能力を発揮していたかを交流する。

子供の「よさ」を見取る力を養う



# 実践事例 **01**

## 第1学年

「がっこうをたんけんしよう  
～とびだせ！

がっこう たんけんたい～」

1

# 入学して2週間の学校生活を振り返る

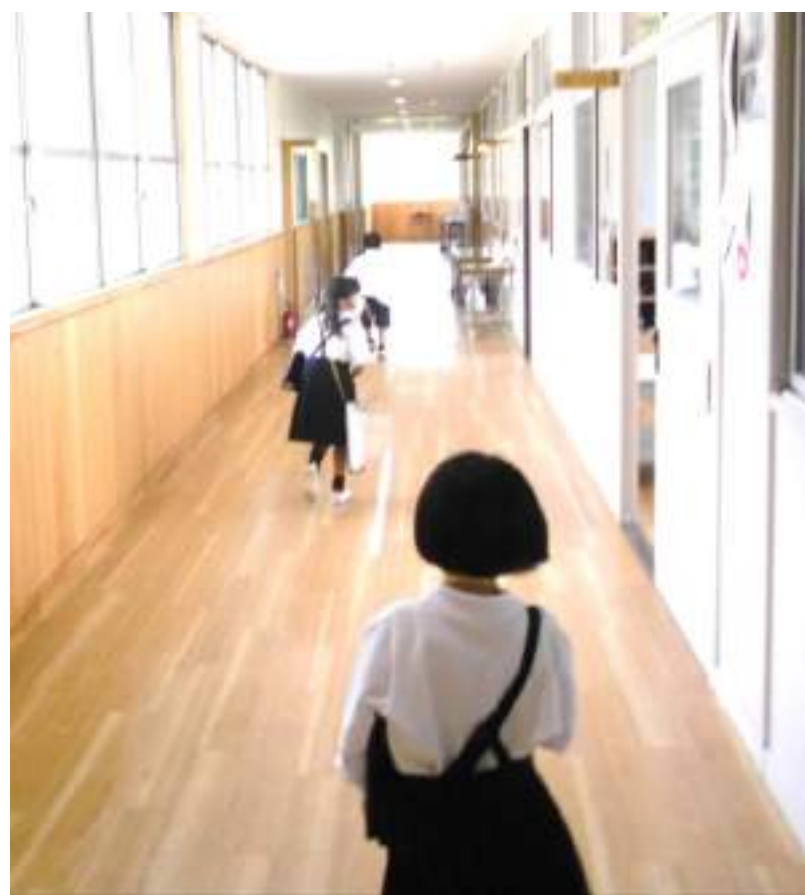


気になるな  
行ってみたいな



- ・校内のまだ行ったことがない場所に興味・関心  
⇒「気になる」「行ってみたい」から課題の設定

# 2 各自で気になる場所へ行ってみる



どきどきした  
よ。



かこのなかをさがすのが  
たのしかった

- ・少人数のグループで思い思いに校内を探検  
⇒一人一人の思いの実現、共有の必然性
- ・学校生活のルールを失敗・成功体験から学ぶ

# 3 自分が見つけたことを発表する



- 発見や驚きを記録するためのICT機器の活用
- 一人一人が自分が見つけたことを表現する時間



# 4

## 先生の名前が分からない！ ⇒ 先生調べ



- 失敗や困難から新たな課題の設定
- 学校にいる先生にインタビュー

# 5 インタビューの失敗からの再挑戦

聞いたことを  
忘れてしまった



- 1回目のインタビューでの失敗 ⇒ メモの必要性
- 失敗からの再挑戦

# 6

## 「学校マップ」の作成



- ・分かったことを伝えたい ⇒ 「学校マップ」の作成
- ・先生の名前を書く (国語科の学習の活用場面)



# 実践事例 **02**

第5学年

「吉名の海の生き物を

調べて紹介しよう」

# 1

## 吉名町の海を散歩



- 吉名の海に散歩へ
- 砂浜で過ごす中で、自然と生き物等を探し始める

# 2

## 海で気付いたことを交流⇒課題の設定

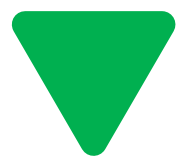


- 吉名の海にたくさんの生き物がいた  
→ 海の特徴や生き物について調べてみたい

# ③ 修学旅行で海水を採集するが……



吉名の海と  
角島の海の水を  
比べたい。



これでは  
調べられないよ。



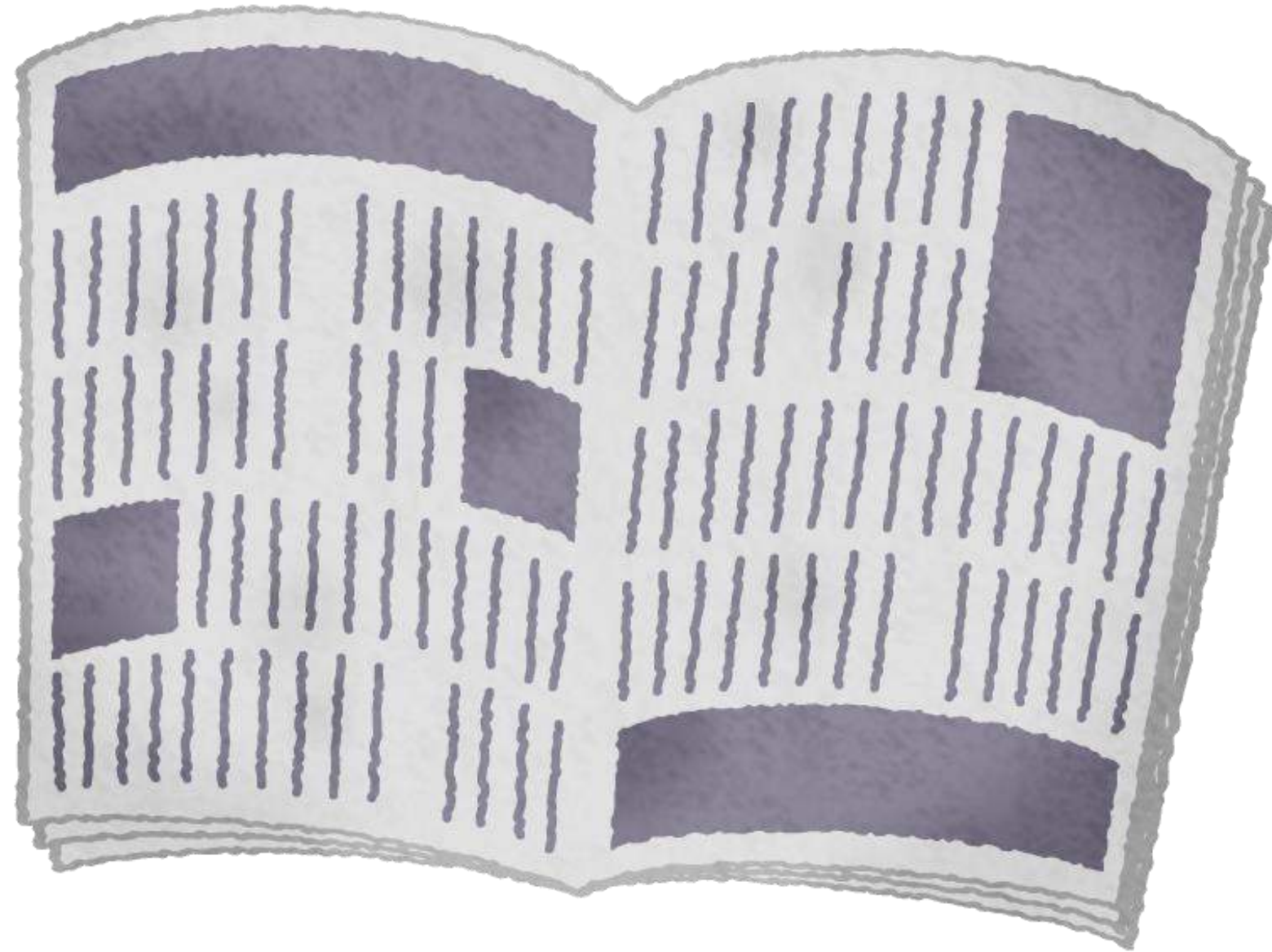
大学の先生



残念。  
次はどうしようかな

- ・自ら動き始める児童 → 失敗
- ・見通しが立たず、停滞……

# 4 新聞に吉名町の海の記事を発見！



吉名町のことが載っている。  
カブトガニがいるだって！



- ・新聞記事から吉名町の海について新たな発見  
→カブトガニを見てみたい！



5

# 吉名町の干潟で生物観察会



- ・新聞に載っていた吉名町の干潟で生物観察会
- ・たくさんのカブトガニ、貴重な生き物を発見!

# 6

## 吉名の海を知る人にインタビュー

私たち漁師からすると、カブトガニは大切だけど、厄介者でもあるね。



漁業協同組合の方に聞き取り



カキ養殖を営む方へ電話

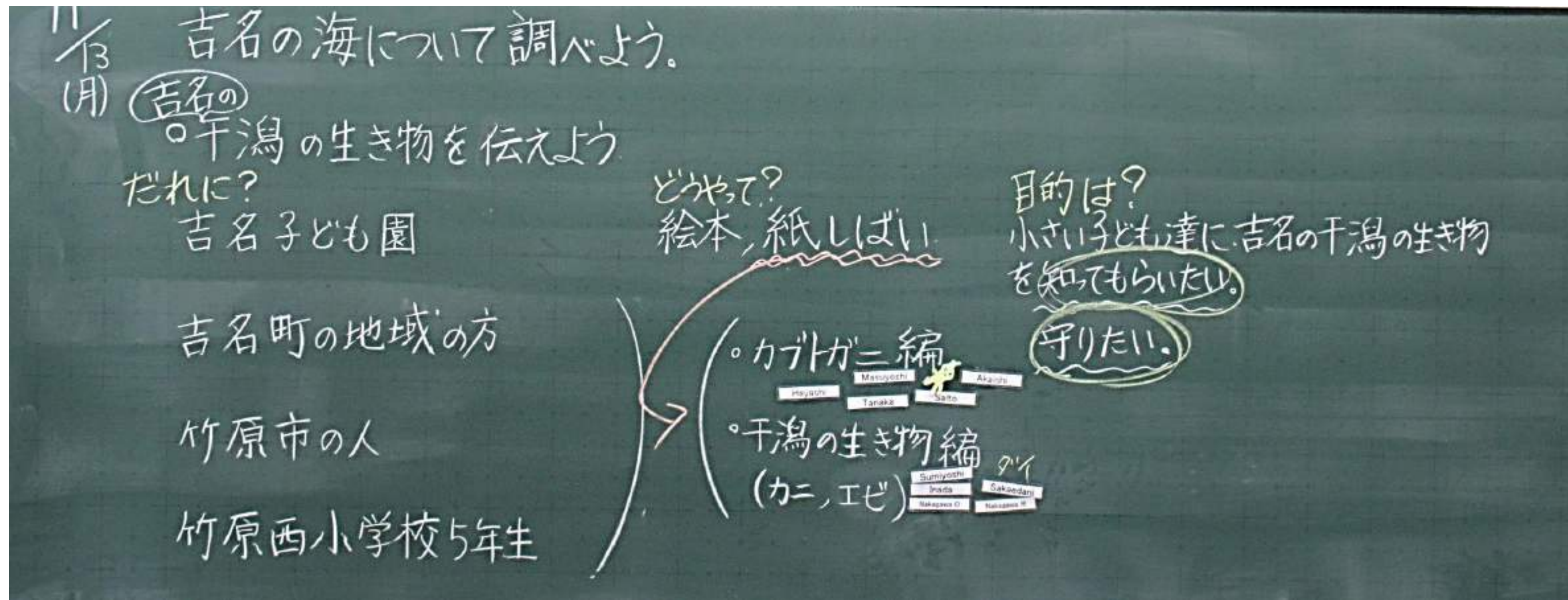
・様々な立場の方にインタビュー

# 7

# 学園祭での発表



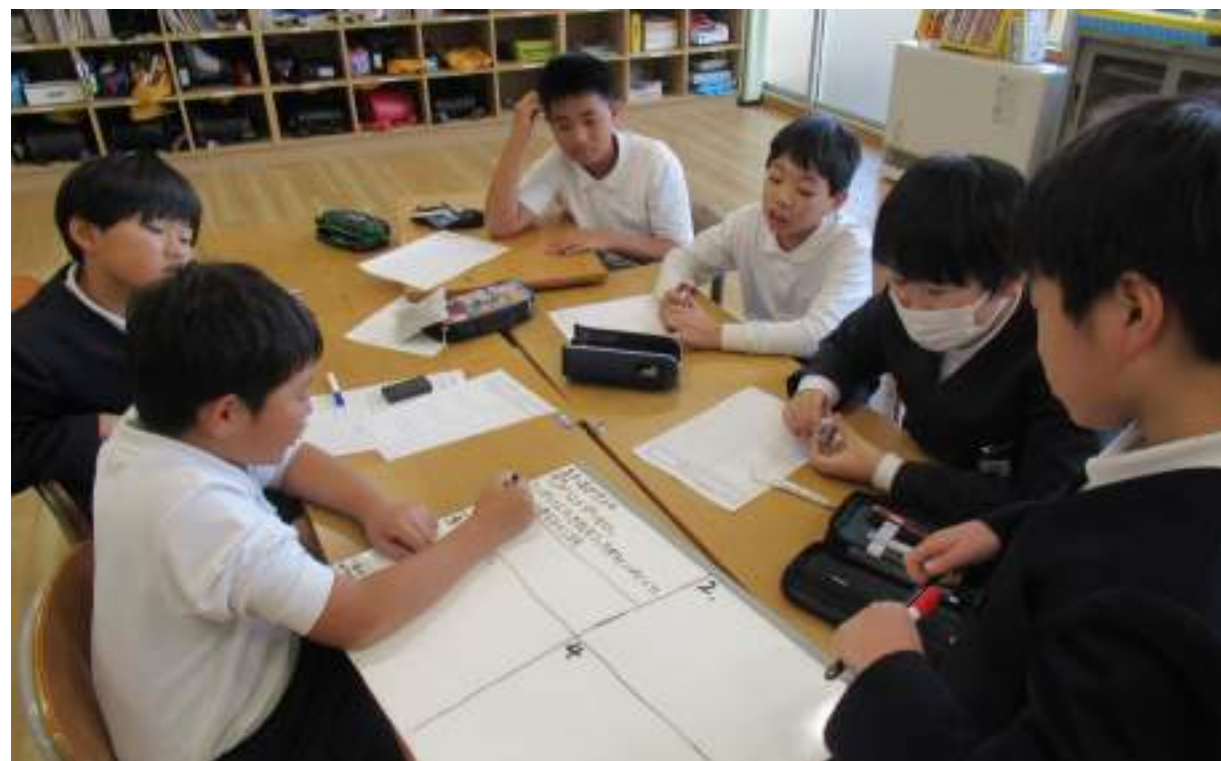
# 8 新たな課題の設定



- ・ ニュース番組づくりに向かう計画だったが……  
⇒ 子どもの「思い」に沿って単元計画を変更

# 9

## こども園の子たちに向けた紙芝居の制作



・こども園の子に向けた登場人物やストーリーを考える。

⇒ 相手意識・目的意識をもった活動

# 10

## 紙芝居をこども園の先生に見ていただく



色が薄くて、絵が見えないなあ。

言葉が難しくて分からないかもしれないね。

ちょっと早口で聞き取れないかな。

- 「本物」からの学び  
⇒ 高い壁との出会い

# 11 アドバイスを基に紙芝居を修正



・失敗からの再挑戦

12

# こども園で紙芝居の披露







# 実践事例 **03**

**第9学年**

**私たちの力で吉名の町を**

**盛り上げよう**

**～吉名未来創造プロジェクト～**

# 1 地域を盛り上げるために 自分たちがやりたいことを考える

よがんすのお祭り(地域の祭り)が楽しかったよね。またやりたいな。

ぼくは別のイベントをしたい

ぼくたちもブースを出して盛り上げようよ!

ぼくも別のイベントのアイデアに賛成!



新型コロナウイルス感染症も5類になって、いろいろできそうだよ! やりたいことをやってみよう!



- ・自分たちがやりたいことを話し合う  
⇒祭り・イベントがやりたい!

## 2 地域の祭りは開催されるのか……



校長先生

実行委員の方に聞いたところ、  
今年の開催は未定とのことでした。

よがんすのお祭りを開催するように、  
実行委員会にお願いしよう！



開催されないなら、自分たちで  
イベントを考えてやろう！

- ・よがんすのお祭りと新しいイベントで意見が分かれる  
→グループに分かれて取組を進める

# 3

## グループごとに企画を練る



アイデアを出し合って立案



情報収集・共有



料理イベントに向けた試作

- ・イベントの実現に向け、企画を考える
- ・料理の試作など、試すことも

# 4

## 学校運営協議会で企画を提案する



- 様々な専門家がいる学校運営協議会で提案
- 委員の方から厳しいご意見

# 5 指摘を踏まえて企画を再検討する



農家レストランの西野さん



イベントの企画やMCをされる山本さん

・企画の実現に向け、「本物」から学ぶ

# 6 イベントの実現に向けて準備をする



食材の準備(仕入れ・選定)



イベント会場の下見



保健所への電話

・材料の準備、会場の下見、関係機関への連絡

# 7

# イベント当日！





# 生徒の振り返り

今回の学習を通して、情報を収集する力が身に付いた。

祭りに何人来るか未知数だったので過去の地域の祭りの傾向からどれぐらいの人が来るかを多変量解析をした。似たような前例があったので、その差にどのような役割を作って計画・運営をしていたのかを調べた。出店の際の様々な許可や申請などについても後にトラブルになるのを避けるためにも徹底して調べた。

# 生徒の振り返り

今回のイベントで吉名町を盛り上げることができたかと言えば、一時的にならできたと思う。

ただ、このイベントを持続して行っていけるなら、いずれは、これまでにあった地域の祭りに代わる新たなイベントになるかもしれないので、今後、後輩たちがこのイベント、または、これに似たイベントを開催してくれれば、盛り上がっていくのではないかなと思う。

# 生徒の振り返り

イベントも祭りもそうだが、一筋縄では絶対にいかないの  
「一発で成功させる」ではなく「なんとしてでも成功させる」と  
いう心持ちが大切だと感じた。今回のイベントでも、最初は「こ  
んな無謀なことはない」と半ば諦めみたいな気持ちだったが、  
構想を具体的に絞っていくことで「だんだんとできるんじゃない  
か」と考えが変わり、最終的には実現まで辿り着いた。この  
ことが「何としてでも成功させる」という心持ちが大切だとい  
うことなのよりの理由になると思う。

# 他学年の実践



2年生「おもちゃをつかってあそぼう」



3年生「吉名町をPRする動画を作って見てもらおう」



4年生「吉名のジャガイモのことを伝えよう」

# 他学年の実践



6年生「地域の偉人を伝えよう」



7年生「野菜を生産・販売して黒字にしよう」



8年生「関心のある職で働いてみよう」

# 成果と課題

# 成果

- 「自立した学び」という理念の共有を図ることができた。
- 全学年で「単元づくりの五つのポイント」を意識した単元開発及び実践が進められた。さらに、児童生徒の思いや願いに沿って柔軟に単元計画を変更していくという考え方が浸透してきた。
- 昨年度よりも多くの地域の方との連携を図り、地域に出て学ぶ機会がさらに増えた。

# 今後に向けて

- ◇ 節目ごとに、活動の視点だけでなく、資質・能力の視点でも振り返りを行い、自己評価の力を高めるとともに、次の単元に向けた意欲につなげる。
- ◇ これまでに積み上げてきた取組を持続可能なものにするため、「『自立した学び』を子供たちに」という本校の理念に基づく学校文化を創造する。





**児童生徒も、教員も、  
ドキドキ、ワクワクする探究的な学びを！**

